



取組事例③ 府中ボランティアセンターの取組

府中ボランティアセンターでは、ボランティア活動の推進や福祉教育に取り組む府中市内の学校（福祉協力校）と協働し、様々な取組を行っている。

■出張ボランティア教室

<取組内容>

- ・福祉協力校にボランティアセンターの職員等が出張し、総合的な学習の時間等を活用して、ボランティアや障害者の講話、車いす体験、高齢者疑似体験、ガイドヘルプ体験などを実施している
- ・障害者の講話や点字、手話体験等については、障害者団体から講師を派遣してもらい、実施している

<取組のポイント>

- ・実施計画書を事前に提出してもらうことで、他団体や地域の方の協力を得る必要がある場合でも、大きな混乱もなく進めることができる
- ・体験内容によっては、晴天用と雨天用のプログラムを計画してもらうことで、天候に関わらず実施することが可能となっている

『福祉体験の趣旨』…介助の仕方等の技術を習得してほしい面もあるが、子供が体験をする場合は、優しい心を持ってほしいということがある

ボランティアセンターでは次のようなことを意識して体験を進めている

当事者の立場に立って行動することにより、相手の気持ちを理解する。

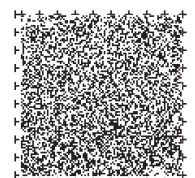
注意：決して不便・恐怖ばかりをあおってはいけません。

自分にはどんな介助（サポート）ができるのかを考える。

注意：ただし、障害者や高齢者を特別扱いする体験ではありません。

手助け（ボランティア）の必要性を理解してもらう。

注意：“困っているから手を貸す”ことに健常者も障害者も関係ありません。



■夏のボランティア体験、一日ボランティア体験

<取組内容>

- ・夏休みを利用して福祉の理解のきっかけを作るため、小学生と保護者（親子）や中学生以上を対象に、様々な施設でボランティア体験を実施
- ・ボランティアの受入は高齢者施設、障害児・者施設、児童施設、病院、NPO団体など様々な施設や団体に協力してもらっている
- ・平成27年度は全72施設・団体に協力してもらい、25組56名の親子（うち小学生30名）、252名の中学生、94名の高校生がボランティア体験を実施
- ・併せて、中学生・高校生を対象に、福祉まつりや福祉センターまつりの場を活用し、一日ボランティア体験を実施

<教育委員会との連携について>

- ・学校への依頼事項や夏のボランティア教室などについては、教育委員会の協力を得て、校長会で周知
- ・福祉協力校の連絡会を実施する場合には、教育委員会から出席してもらうなど、情報交換を密に行っている



取組活動展を開催し、福祉協力校の取組を紹介

